

<p>界面活性剤（かいめんかつせいざい）</p>	<p>界面活性剤とは、水分と油分のように混じり合わないものの仲立ちをする物質のことです。混じり合わない成分を細かく分散して混ぜ合わせてしまう「乳化作用」や油脂やクリームに顔料を均一に分散させる「分散作用」や水に溶け難い物質のにごりを透明に見せる「可溶化作用」などの働きがあります。水に溶けた時にイオン化する〔イオン性界面活性剤〕とイオン化しない〔非イオン性界面活性剤〕に分類されています。イオン性界面活性剤は更に、〔陰イオン性〕（アニオン性）と〔陽イオン性〕（カチオン性）とに分かれています。</p>
<p>陰イオン性界面活性剤／アニオン性界面活性剤 （いんいおんせいかいめんかつせいざい）</p>	<p>水に溶かした際にイオン化して、親油基（構造的に油になじむ部分）がマイナスに解離するものです。洗浄力が強くて泡立ちがよいことから、シャンプーや洗剤に使用されています。</p>
<p>ココイルグルタミン酸Na／N-アシル-L-グルタミン酸 ナトリウム（ここいるぐるたみんさんなどりうむ）</p>	<p>グルタミン酸と脂肪酸からなるN-アシルアミノ酸塩の界面活性剤です。適度な起 泡力と洗浄力を持ち、弱酸性を示し、比較的安全性の高い洗剤として、シャン プーや洗顔クリームや歯磨きで使用されています。</p>
<p>アルキル(C14-18)スルホン酸Na／アルカンスルホ ン酸ナトリウム（あるきるすほんさんなどりうむ）</p>	<p>C14～18のアルコールを硫酸化して水酸化ナトリウムで中和したものです。油汚 れに対して優れた洗浄力を持ち、泡立ちも良いことから、シャンプーや化粧石鹸 や歯磨き剤に使用されています。</p>
<p>アルキル硫酸Na／アルキル硫酸ナトリウム（あるき るりゅうさんなどりうむ）</p>	<p>アルキル硫酸エステルのナトリウム塩です。油汚れに対して優れた洗浄力を示 し、泡立ちもクリーミーです。石鹸やシャンプーやリンスに使用されています。</p>
<p>イソステアロイル加水分解コラーゲンAMPD／イソ ステアロイル加水分解コラーゲン・アミノメチルプロパ ンオール塩（いそすてあるいるかすいぶんか いこらーげん）</p>	<p>コラーゲンたんぱく質の加水分解物とイソステアリン酸との縮合物です。起 泡性と洗浄性を持つが脱脂力が少ない物質です。皮膚や頭髮に対して潤滑作用や柔 軟作用があり、石鹸、シャンプー、リンス、クリーム、化粧水に使用されています。</p>
<p>オレス-〇〇（分子数）／ポリオキシエチレンオレ イルエーテル（おれす／ほりおきしえちれんおれい るえーてる）</p>	<p>マッコウ鯨油より得られるオレイルアルコールに酸化エチレンを付加したも の です。オレス-〇〇の〇はその酸化エチレンの付加モル数（分子数）を表してい ます。リンス、トリートメント、ヘアクリーム、ヘアリキッド、などの頭髪化粧品および 化粧水などに使用されています。</p>
<p>ポリソルベート20／モノラウリン酸ポリオキシエチ レンソルビタン（ほりそるべーと20／ものらうりんさん ほりおきしえちれんそるびたん）</p>	<p>比較的安全性の高い、非イオン性界面活性剤です。乳化剤として、クリームや乳 液や化粧水などに広く使用されています。また、香料など水に溶けない物質の可 溶化剤としても使用されています。</p>
<p>ポリソルベート40／モノパルミチン酸ポリオキシエ チレンソルビタン（ほりそるべーと40／ものぱるみち んさんほりおきしえちれんそるびたん）</p>	<p>非イオン性界面活性剤で、優れた乳化作用、可溶化作用、分散作用を持ってい ます。クリーム、ファンデーション、パック、頭髪化粧品などに使用されています。</p>
<p>ポリソルベート60／モノステアリン酸ポリオキシエ チレンソルビタン（ほりそるべーと60／ものすてありん さんほりおきしえちれんそるびたん）</p>	<p>非イオン性界面活性剤で、優れた乳化作用、可溶化作用、分散作用があります。 クリーム、乳液、石鹸、シャンプー、リンス、メイクアップ化粧品など広く使用され ています。</p>
<p>ポリソルベート80／モノオレイン酸ポリオキシエチ レンソルビタン（ほりそるべーと80／ものおれいんさん ほりおきしえちれんそるびたん）</p>	<p>非イオン性界面活性剤です。皮膚に対する刺激は少なく、乳化剤として各種化粧 品に使用されています。また、水に溶けない香料や色素や薬品類の可溶化剤と しても使用されています。</p>
<p>ポリソルベート85／トリオレイン酸ポリオキシエチ レンソルビタン（ほりそるべーと85／とりおれいんさん ほりおきしえちれんそるびたん）</p>	<p>非イオン性界面活性剤です。水に分散し、油性で優れた乳化作用があります。 クリーム、乳液、石鹸、シャンプー、リンス、メイクアップ化粧品などに使用され ています。</p>
<p>PPG-6デシルテトラデセス-30／ポリオキシエチ レンポリオキシプロピルデシルテトラデシルエーテル （ほりおきしえちれんほりおきしぶろびれんでして とらでしるえーてる）</p>	<p>酸化エチレン・酸化プロピレンの平均重合度がそれぞれ5と30の非イオン性界 面活性剤です。乳化作用や可溶化作用に優れることから、石鹸・シャンプー・リ ンス・クリーム・乳液・化粧水などに使用されています。</p>
<p>ミスチン酸ポリグリセリル-10／モノミスチン酸ポ リグリセリル（みりすちんさんほりぐりせりる／もの みりすちんさんほりぐりせりる）</p>	<p>ポリグリセリンと脂肪酸とのエステル化によって得られる非イオン性界面活性 剤 です。脂肪酸の種類やグリセリンの重合度やエステル化度を変えると、水溶性か ら油性の～油状からワックス状の油性原料が得られます。乳化剤として顔料 の分散剤として、エモリエント剤や毛髪のコンディショニング剤として、各種化粧 品に使用されています。</p>
<p>オレフィンスルホン酸Na／テトラデセスルホン酸 ナトリウム（おれふいんするほんさん）</p>	<p>皮膚に刺激の少ない洗剤です。高い洗浄力がありシャンプーの洗浄剤や起 泡剤として、液体ソープの基剤として、化粧品の乳化剤としても使用されています。</p>
<p>ココミドプロピルベタイン（こかみどぷろびるべたい ん）</p>	<p>ヤシ油脂脂肪酸とベタインを縮合して得られる界面活性剤です。シャンプーなどに 帯電防止剤或いは洗浄剤、起 泡剤として、ヘアコンディショニング剤として使用され ています。</p>
<p>ポリクオタニウム-7（ほりくおたにうむ）</p>	<p>塩化ジメチルジアリルアンモニウムとアクリルアミドの共重合体です。特異臭のあ る 粘液中で、優れた帯電防止性やコンディショニング性があり、頭髪化粧品や基礎 化粧品に使用されています。</p>
<p>ジメチコンポリオール（じめちこんほりおーる）</p>	<p>非イオン性の界面活性剤です。耐水性の化粧品に配合されるシリコンの乳化 剤 として、或いはシャンプーや頭髪化粧品のコンディショニング剤として使用され ています。</p>
<p>増粘剤（ぞうねんざい）</p>	<p>増粘剤は、化粧品の使用感を良くしたり高級感を出すために使用されています。 また乳液やリキッドファンデーションでは、乳化粒子や粉末が分離するのを防 ぐ ために使用されています。以前は天然高分子と呼ばれるもの（ゼラチン、カゼ イン、コラーゲン、ヒアルロン酸、アルブミン）が多く使用されていましたが、粘 度の変動や微生物の繁殖の問題から、合成高分子や半合成高分子と呼ばれるもの が主流になりつつあります。</p>

アラビアガム (あらびあがむ)	アラビアゴムノキなどの幹や枝から採れるガム状の物質です。無色～淡黄色を呈し、水に良く溶けて半透明な溶液になります。乳化安定剤や増粘剤として各種化粧品に、また固着剤としてセットローションに使用されています。粘度を増すためにゼラチンなどと併用されます。
アルギニン・カルボマー (カルボキシビニルポリマー) / カルボマー (あるぎにんかるぼまー)	水溶性のビニルポリマーで、毒性や眼粘膜・皮膚に対する刺激はほとんどないとされています。増粘効果が高く温度による粘度の変化が少なく、微生物による汚染がされ難いことから、増粘剤として最も多く使用されています。
アルギン酸ナトリウム / アルギン酸Na (あるぎんさんなとりうむ) アルギン酸プロピレングリコール / アルギン酸PG (あるぎんさんぷろぴれんぐりこーる)	昆布などの海藻を希アルカリで抽出精製した炭水化物です。乳化安定性、吸水性があり、化粧品や医薬品にも使用されています。白色～帯黄色の粉末で水によく溶けます。増粘剤やフィルム形成剤として、クリーム、乳液、整髪料に使用され、またゲル化剤や剥離剤としてパックに使用されています。
エチルセルロース (えちるせるろーす)	無毒、無刺激の白色の無結晶粉末です。酸化しやすいので抗酸化剤と併用されます。強靱で柔軟性のある皮膜を形成するため、口紅やマニキュアなどの皮膜形成剤として使用されています。
カルボキシメチルセルロースナトリウム / セルロースガム / グリコール酸ナトリウム / CMC (かるぼきしめちるせるろーすなとりうむ) キサンタンガム (きさんたんがむ)	水溶性セルロース誘導体の一種です。白色で無味、無臭、無刺激、無毒の粉末です。ローション、乳液、クリーム等の粘度調整や乳化安定剤として使用されています。ブドウ糖などの炭水化物をキサントモナス属菌で発酵させて得られる天然のガム質です。分子量が大きく特異の粘度を持っています。使用感が優れていることから基礎化粧品、メイクアップ化粧品などに使用されています。
合成ケイ酸ナトリウム・マグネシウム (ごうせいけいさんなとりうむ・まぐねしうむ) ジメチルジステアリルアンモニウムヘクトライト / クオタニウム-18ヘクトライト (じめちるじすてあいるあんもにうむへくとらいと)	合成品であるため品質が安定しており透明性に優れています。増粘剤やゲル化剤として使用されています。灰白色～淡黄色の粉末で、無臭です。粘度調整剤や乳化安定剤として化粧品に使用されています。
シクロデキストリン / CD (しくろできすとりん)	環状構造(ドーナツ型)をしており、その分子の空洞内に香料や油溶性の成分や不安定な薬剤などを取り込む性質があります。酸化防止や水不溶性物質の乳化などの働きをするため、パウダー、クリーム、乳液、化粧水、シャンプーなどに使用されています。
ポリアクリル酸ナトリウム / ポリアクリル酸Na (ぼりあくりるさんなとりうむ)	アクリル誘導体の一つで水溶性の高分子化合物です。水に溶けると粘度の高い液体となりますが、界面活性剤として油成分を乳化分散させる効果もあります。増粘剤や乳化剤としてクリーム・乳液・化粧水・シャンプーなどに、或いは分散剤としてメイクアップ化粧品に使用されています。
金属イオン封鎖剤 / キレート剤 (きんぞくいおんふうさざい / きれーとざい)	水の中に含まれているカルシウムやマグネシウム(ミネラル成分)は金属イオン(電荷を持つ粒子)を持っています。これらの金属イオンが化粧品や石鹸や洗剤に含まれる界面活性剤や薬剤と強力に結びつくと、沈でん(カス)、濁り、変臭、変色を起こしてしまいます。或いは金属イオン自体が金属石鹸と呼ばれる汚れとなって容器などに付着してしまうこともあります。(洗面器などの湯あかは金属石鹸です)金属イオン封鎖剤は、これら金属イオンを不活性化させるために配合されています。
エデト酸 / エデト酸塩 / エチレンジアミン四酢酸 / EDTA (えでとさん)	エチレンジアミンとクロロ酢酸ナトリウムより合成される代表的な金属イオン封鎖剤(キレート剤)です。中和の割合によって、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、エデト酸四ナトリウムなどに分類されています。金属イオンの封鎖の他に、殺菌や変色防止、酸化防止やビタミンCの安定化に、或いは化粧水や石鹸の透明化などの目的で使用されています。
ペンテ酸5Na / ジエチレントリアミン五酢酸五ナトリウム液 (べんてとさん / じえちれんとりあみん) 油性原料 (ゆせいげんりょう)	淡黄色透明な液体でキレート作用があります。ヘアダイ・ヘアカラーなどに使用されています。油性原料は化粧品の原料として非常に広範囲に渡って使用されています。使用目的は、皮膚に対する保護作用やエモリエント効果やクレンジング作用(乳液やクリームに)或いは、粉体原料に対する結合作用や分散作用(ファンデーションなどに)或いは、成型性(口紅などのスティック製品やアイシャドーなど固形製品)などです。元になる原料によって、油脂類、ロウ類、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル類、に分類されています。
アボガド油 (あほがどゆ)	油脂類に分類される植物油です。熱帯地方で栽培されるワニナシの果実から得られる油脂で、オレイン酸、リノール酸を多く含み、パルチミン酸、ミリスチン酸、ステアリン酸、ビタミンA・B・D、レシチンを含んでいます。エモリエント効果を与えるためにクリームなどに使用されています。
アーモンド油 / 扁桃油 (あーもんどゆ / へんとうゆ)	油脂類に分類される植物油です。ヘントウ油とも呼ばれています。オレイン酸が主成分で、エモリエント効果が高く、石鹸やクリームに使用されています。酸化しやすいので酸化防止剤の添加が必要になります。
オリーブ油 (おりーぶゆ)	油脂類に分類される植物油です。オリーブの果実から採取され、わずかに特有の臭いがあります。オレイン酸が主成分で、リノール酸、パルチミン酸を含んでいます。石鹸の原料やクリーム、マッサージオイル、サンオイル、口紅などに使用されています。
キューカンバー油 (きゅーかんばーゆ)	油脂類に分類される植物油です。キューリの種子から得られる脂肪油で、わずかに特異臭があります。保湿作用や皮膚保護作用があり、クリームや乳液や化粧水などに使用されています。

コメヌカ油（こめぬかゆ）	油脂類に分類される植物油脂です。コメの種子の精米後のコメヌカから得られる油でわずかに特異臭があります。コメ原油は中性脂肪を含むほか、遊離脂肪酸、ロウ分、トコフェノール、オリザノール、ステロール、リン脂質、糖脂質、金属などを含んでいます。空気や熱に対して比較的安定しており、オリザノールが紫外線を吸収して皮膚を保護すると言われていることから、欧米ではサンスクリーン剤として使用されています。コメヌカ油から作った石鹸は水に溶けやすく、洗浄力に優れています。
トウモロコシ油／コーン油／マゾラ油（とうもろこしゆ／コーンゆ／まぞらゆ）	油脂類に分類される植物油脂です。トウモロコシの胚芽から得られます。主成分はリノール酸、オレイン酸、パルミチン酸で、加工食品やクリーム、頭髮化粧品に使用されています。
ヒマワリ油／サンフラワー油（ひまわりゆ／さんふらわーゆ）	油脂類に分類される植物油脂です。ヒマワリの種子から得られる透明な液体の油脂です。エモリエント効果がありクリームなどに使用されています。またサンオイルのベースに使用されています。
ローズヒップ油（ろーずひっぷゆ）	油脂類に分類される植物油脂です。南米、ヨーロッパ、アジアに生息する野生のバラの一種であるローズヒップの種子から得られる油脂です。ビタミンCが含まれていることから食用として風邪に効くと言われています。リノール酸、リノレン酸を多く含み、日焼けや色素沈着の沈静化に効果があると言われ、クリームや乳液のエモリエント剤として使用されています。
オレンジラフィー油（おれんじらふいーゆ）	油脂類に分類される動物油脂です。ヒウチダイ科の魚類から得られる液体の油脂です。皮膚になじみや軽く軽い感触の油で、クリームや乳液や口紅などに使用されています。
牛脂（ぎゅうし）	油脂類に分類される動物油脂です。ウシの新鮮な脂肪に水を加えて加熱し煮出した固体脂でわずかに特異臭があります。主成分はパルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸で、石鹸の原料として使用されています。
ミンク油（みんくゆ）	油脂類に分類される動物油脂です。ミンクの皮下脂肪から得られる脂肪油です。オレイン酸、パルミチン酸を多く含み、皮膚に対する親和性、湿潤性がよく、べとつかずさっぱりした感触を与えます。各種クリーム、乳液、頭髮化粧品などに使用されています。
卵黄油（らんおうゆ）	油脂類に分類される動物油脂です。ニワトリの卵黄から有機溶媒で抽出される粘性の油脂です。乳化剤として使用されますが保存が困難で、高級なモイスチャークリームなどに使用されています。
キャンデリラロウ（きゃんでりらろう）	ロウ類に分類される植物性ロウです。メキシコ北部、アメリカカリフォルニア南部などの半乾燥地域に生育するキャンデリラの茎から得られます。キャンデリラロウの融点は高く（溶け難い）口紅の重要な原料として使用されています。
鯨ロウ（げいろう）	ロウ類に分類される動物性ロウです。マッコウクジラの頭蓋骨の空洞部分にあるロウを精製したもので、滑らかで光沢のある白色の固体です。主成分はパルミチン酸セチルです。角質層によく浸透し、エモリエント効果があることから、クリーム
ホホバ油（ほほばゆ）	ロウ類に分類される植物性ロウです。米国南部、メキシコ北部の乾燥地帯に自生しているカン木の種子から得られる黄色の液体ロウです。ロウであるにもかかわらず液体なため「油」と呼ばれています。刺激のない天然の液体ワックスとして各種化粧品に使用されています。酸化しにくく皮膚になじみや軽く、クリーム、乳液、口紅などに使用されています。
ラノリン（らのりん）	ロウ類に分類される動物性ロウです。羊毛に付着している分泌物（羊脂）を精製して得られる高級脂肪酸とコレステロール、および高級アルコールなどの混合物からなる物質です。水に溶けませんが約2倍量の水を吸収し乳化性に優れ、潤湿性に富むため各種化粧品に使用されていますが、臭気が強く、またアレルギー性皮膚炎の原因になると言われていますので注意が必要です。
還元ラノリン／水素添加ラノリン（かんげんらのりん／すいそてんからのりん）	ロウ類に分類される動物性ロウです。ラノリンを水素添加して還元して得られる固体で、高級アルコール、コレステロールの混合物です。ラノリンよりも親水性が強く抱水量はラノリンの1.5倍とも言われています。すぐれた油性基剤としてクリームや乳液に、のびやねばり塗りやすさを与える目的で口紅などに使用されています。アレルギー性皮膚炎の原因になると言われていますので注意が必要です。
液状ラノリン（えきじょうらのりん）	ロウ類に分類される動物性ロウです。ラノリンの固形部分を除去し液状部分を取り出した液体です。エモリエント効果があり、皮膚の浸透も良く、またラノリンよりも鉱物油との相性が良いため、乳化安定剤として、色素の可溶化剤として、また分散剤として、各種化粧品に使用されています。接触性皮膚発疹やアレルギー性皮膚炎の原因になると言われています。
硬質ラノリン／ラノリンロウ（こうじつらのりん／らのりんろう）	ロウ類に分類される動物性ロウです。ラノリンから液状ラノリンを除いたエステル類の混合物です。口紅などに使用される他、クレヨンやスキーワックスに使用されています。アレルギー性皮膚炎の原因になると言われています。
α-オレフィンオリゴマー（あるふぁおれふいんおりごまー）	炭化水素に分類される油性原料です。無色透明な液体の合成炭化水素で、感触がスクワランに似ています。安全性が高く乳化しやすいので化粧品の油性成分としてクリーム、マッサージオイル、サンオイルなどに使用されています。
スクワラン（すくわらん）	炭化水素に分類される油性原料です。アイザメ他深海に住むサメ類の肝油から得られる「スクワレン」に水素添加して得られる無色透明の油です。皮膚刺激がほとんどなくエモリエント効果に優れているため、高級化粧品に使用されています。

植物性スクワラン／オリーブスクワラン (しょくぶつせいすくわらん／おリーブすくわらん)	炭化水素に分類される油性原料です。オリーブ油などから抽出された「スクワレン」を水素添加したもので、サメ肝油から得られるスクワランとの大きな違いは、プリスタンを含まないことが挙げられます。
CDスクワラン (しーでいすくわらん)	炭化水素に分類される油性原料です。スクワランをCD(シクロデキストリン)で覆い、粉末化した複合成分です。保湿剤として使用されます。
セレシン／地口ウ (せれしん)	炭化水素に分類される油性原料です。石油原油中に含まれず、鉱脈として存在するオゾケライト(地口ウ)を精製したものです。口紅やアイシャドーの固化剤として、またクリームやファンデーションに使用されています。
固形パラフィン (こけいばらふいん)	炭化水素に分類される油性原料です。鉱物油(石油原油)を蒸留して最後に残存する部分を精製して得られます。無色無臭で酸化することが無く、乳化しやすい特性を持つことから、クリーム、口紅、スティック状化粧品などの油性成分として使用されています。
流動パラフィン (りゅうどうばらふいん)	炭化水素に分類される油性原料です。鉱物油(石油原油)を蒸留して固形パラフィンを除去して精製したものです。無色無臭で透明な物質で、酸化することがなく乳化しやすく、皮膚によくのびて浸透性がほとんどありません。油性の物質と相溶性が良く、油性メイクアップ製品を溶解する作用が強いことからクレンジングクリームやコールドクリームなどに、また乳液の油性原料としても使用されています。
プリスタン (ぶりすたん)	炭化水素に分類される油性原料です。サメの肝油中にスクワレンと共に存在しています。無色無臭でスクワランよりも軽い感触を持つ浸透性の強い油状液体です。メイクアップ製品やクレンジングクリームなどに使用されていますが、皮膚への刺激が強い物質なので注意が必要です。
マイクロクリスタリンワックス (まいくろくりすたりんわっくす)	炭化水素に分類される油性原料です。鉱物油(石油原油)中に存在する固形の炭化水素です。粘り気が強く、のびがよく、口紅、アイシャドー、クリーム等に使用されています。
ワセリン (わせりん)	炭化水素に分類される油性原料です。鉱物油(石油原油)から得られる半固形(軟膏)で無色無臭の物質です。粘着力が強く、クレンジングクリームやコールドクリーム等の油性クリームに、また口紅やアイシャドーなどのメイクアップ製品に使用されています。
イソステアリン酸 (いそすてありんさん)	高級脂肪酸に分類される油性原料です。牛脂や大豆油、綿実油を加水分解して得られます。固形のステアリン酸に対してイソステアリン酸は液体です。クリームののびや硬さに影響を与え、クリーム、乳液やファンデーションにも使用される他、界面活性剤の重要な原料としても使用されています。
オレイン酸 (おれいんさん)	高級脂肪酸に分類される油性原料です。オリーブ油、ツバキ油、牛脂などを原料とし加水分解して蒸留精製して得られる透明な液体です。非常に酸化しやすく、空気に触れると着色して変敗臭を生じます。乳液やクリーム、液体石鹸やシャンプーに使用される他、高純度オレイン酸系界面活性剤の原料に使用されています。酸化しやすい性質のため、酸化防止剤が多量に併用されます。
ステアリン酸 (すてありんさん)	高級脂肪酸に分類される油性原料です。牛脂、大豆油、綿実油などを加水分解して得られます。イソステアリン酸が液体なのに対してステアリン酸は白色の固体です。一般に使用されるものは純粋なステアリン酸ではなく、パルミチン酸との混合物で、目的によって混合比を変えています。クリームの重要な原料として使用され、クリームののびや硬さに影響を与えています。各種クリームや乳液の油性原料として、またファンデーションにも使用される他、界面活性剤の原料としても使用されています。
パルミチン酸 (ばるみちんさん)	高級脂肪酸に分類される油性原料です。パーム油などを加水分解した後蒸留精製して得られます。白色の固体でわずかに特異臭があります。洗顔クリームの原料や界面活性剤の原料として使用されています。
ベヘニン酸／ベヘン酸 (べへにんさん／べへんさん)	高級脂肪酸に分類される油性原料です。ナタネ油を加水分解し蒸留精製して得られます。乳化製品の安定性や温度耐性、真珠光沢を与える目的で使用されています。
高級アルコール (こうきゅうあるこーる)	炭素原子数6以上の一価アルコールを指します。高級とは炭素の数が多いうことを意味しており、上等という意味ではありません。ロウ類を加水分解した「分解アルコール」や脂肪酸の高圧水素還元による「還元アルコール」や鉱物油(石油資源)からの「合成アルコール」などに分類されています。
イソステアリアルアルコール (いそすてありんあるこーる)	高級アルコールに分類される油性原料です。他の油性物質との相溶性が良く、熱安定性や酸化安定性に優れ、リキッドタイプのメイクアップ製品や乳液に、或いは界面活性剤の原料としても使用されています。
オレイルアルコール (おれいるあるこーる)	高級アルコールに分類される油性原料です。マッコウクジラやツチクジラの脂質に多量に含まれています。鯨油の入手が困難になってきたこともあり、オリーブ油や牛脂から得たオレイン酸を還元して得られるようになりました。乳化安定作用に優れ、クリームや乳液、口紅に使用されています。
オクチルドデカノール (おくちるとでかの一)	高級アルコールに分類される油性原料です。空気中で変敗せず安定していて、皮膚への感触もよく刺激が少ないことから、乳液やクリーム或いは、サンオイルのベースとして使用されています。
キミルアルコール／グリセリルモノセチルエーテル (きみるあるこーる／ぐりせりるものせちるえーてる)	高級アルコールに分類される油性原料です。サメ肝油にスクワレンと共に存在する結晶粉末ですが、一般に使用されるのは合成品です。保湿性のある油性原料です。
コレステロール／コレステリン (これすてろーる／これすてりん)	高級アルコールに分類される油性原料です。哺乳動物の組織中に存在しており、ラノリンの中にも存在するため、ラノリンや牛や豚の脳から製造されます。エモリエント剤、乳化剤としてクリームなどに使用されています。

シトステロール／シトステリン（しとすてろーる／しとすてりん）	高級アルコールに分類される油性原料です。穀類や樹皮、葉などに含まれています。皮膚に対する作用がコレステロールに似ているため、コレステロールの代用として、或いは界面活性剤の原料として使用されています。
ステアリアルアルコール（すてありあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。鯨ロウまたはマッコウクジラ油から得られ、またはオレイルアルコールに水素添加しても得られます。白色のロウに似た感触のある固体です。クリームに光沢を与えて白色化を促すため、クリームや乳液などに広く使用されていますが、皮膚に対して弱い刺激があることから注意が必要です。
セタノール／セチルアルコール／パルミチルアルコール（せたのーる／せちるあるあるこーる／ぱるみちるあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。鯨ロウまたはマッコウクジラ油を加水分解して得られ、またはヤシ油、牛脂を還元して得られます。配合すると安定性が非常に増し、光沢と白色を与えることから、クリームや乳液、口紅などのスティック製品に使用されていますが、皮膚に対して弱い刺激があると言われているため、注意が必要です。
セトステアリアルアルコール／セテアリアルアルコール（せとすてありあるあるこーる／せてありあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。鯨ロウを加水分解または還元によって得られていましたが、現在ではヤシ油や牛脂を還元、分留により得られます。クリームや乳液などの乳化製品に多く使用されており、また口紅には伸びや付きの調整を目的に使用されています。皮膚に対して弱い刺激があります。
デシルテトラデカノール（でしるてとらでかのーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。常温で無色透明の液体で、素肌に対する刺激はほとんどありません。他の油性物質との相溶性が良く、各種クリームの油性原料として、メイクアップの顔料分散剤として使用されています。
パチルアルコール／グリセリルモノステアリアルエーテル（ぱちるあるあるこーる／ぐりせりるものすてありあるえーてる）	高級アルコールに分類される油性原料です。サメの肝油中にスクワレンと共に存在する結晶粉末です。素肌への刺激が無く、のびが良く保湿性に優れているため、各種化粧品の油性成分、乳化剤、乳化安定剤として使用されています。
フィトステロール／ダイズステロール（ふいとすてろーる／だいずすてろーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。植物油脂から抽出して得られ、主な成分はβ-シトステロールです。コレステロールと良く似ており、基礎化粧品や頭髪用化粧品に使用される他、界面活性剤の原料としても使用されています。
ベヘニルアルコール（べへにるあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。ナタネ油の還元アルコールより得られる白色の固体です。乳化安定性に優れており、配合すると温度耐性の良い製品を作る事が出来ます。
ラノリアルアルコール（らのりんあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。ラノリンを加水分解して得られる混合物です。保水性や乳化性に優れているため、各種化粧品に使用されています。酸化変敗しやすい性質のため、配合する際は多量の酸化防止剤が併用されます。素肌に刺激があり、接触性皮膚発疹やアレルギー性皮膚炎の原因になると言われています。
水素添加ラノリアルアルコール／水添ラノリアルアルコール（すいそてんからのりんあるあるこーる）	高級アルコールに分類される油性原料です。ラノリアルアルコールに水素を添加して、安定化を図った物質です。乳化性や分散性に優れ、配合すると製品の外観が良くなるため、各種クリームやローションや口紅などに広く使用されています。接触性皮膚発疹やアレルギー性皮膚炎の原因になると言われています。
エステル（えすてる）	エステルとは、酸とアルコールから脱水して得られる有機化合物です。一般に化粧品の油分に配合することによって、製品に油ぎった感じを少なくしたり、混じり合わない成分の混和剤として、更には染料や香料などの添加剤の溶剤として、広く用いられています。
アジピン酸ジヘプチルウンデシル／アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル（あじぴんさんじへぶちるうんでしる）	エステル類に分類される油性原料です。顔料との相溶性が良く、溶解性や浸透性に優れています。口紅、リップクリーム、ファンデーション、クリーム、ローション、洗顔料に使用されています。
酢酸ラノリン／アセチル化ラノリン（さくさんらのりん／あせちるからのりん）	エステル類に分類される油性原料です。ラノリアルアルコールに無水酢酸を使用してアセチル化したものです。鉱物油に良く溶けるのでベビーオイルに、またエモリエント効果があるためコールドクリームや口紅に使用されています。皮膚に対して弱い刺激があると言われています。
イソステアリアルグリセリル／イソステアリアルグリセリルエーテル（いそすてありあるぐりせりる／いそすてありあるぐりせりあるえーてる）	エステル類に分類される油性原料です。無色～微黄色のワセリン様物質です。口紅、ファンデーション、クリーム、乳液などに使用されています。
イソステアリン酸ヘキシルデシル／イソステアリン酸イソセチル（いそすてありんさんへきるでしる）	エステル類に分類される油性原料です。皮膚に対する刺激が少なく、酸化しにくい性質です。配合しても油ぎった感じを与えず、感触が向上することからクリームや乳液に使用されています。
イソステアリン酸オクチルドデシル／I.S.O.D.（いそすてありんさんおくちるとでしる）	エステル類に分類される油性原料です。無色で常温で液体、-10度でも凝固しないため、スキンケア製品やメイクアップ製品の安定性を向上させる油性成分として使用されています。
イソステアリン酸コレステル（いそすてありんさんこれすてる）	エステル類に分類される油性原料です。類似細胞間脂質と呼ばれています。皮膚上で水分を抱き込みエモリエント効果に優れていることから、クリームやファンデーションや口紅に使用されています。
イソステアリン酸パチル（いそすてありんさんぱちる）	エステル類に分類される油性原料です。油溶性で融点が低く、パチルアルコールの特性としての保湿性や乳化の安定化や感触の良さから、基礎化粧品やメイクアップ化粧品に使用されています。

イソステアリン酸フィトステリル／フィトステリルステアレート（いそすてありんさんふいとすてりる）	エステル類に分類される油性原料です。植物由来のフィトステロールとイソステアリン酸のエステルです。優れた感触の油性成分で、他の化粧品原料との相溶性も良く、のびやすペリを改善する目的で口紅やファンデーションなどに使用されています。また粘度安定効果やエモリエント効果もあるため、クリームや乳液にも使用されています。
オクタン酸セチル／2-エチルヘキサン酸セチル（おくとんさんせちる）	エステル類に分類される油性原料です。水鳥の羽毛脂に似た合成油で、皮膚に対する刺激もなく油ぎらない使用感を与えます。油性成分やエモリエント剤として、クリームや乳液などに広く使用されています。
オレイン酸デシル（おれいんさんでしる）	エステル類に分類される油性原料です。微黄色の透明な液体で、皮膚によくなじみ潤湿力と浸透力のある油性成分として、クリームや乳液やメイクアップ製品や美容オイルに使用されています。
ジステアリン酸グリコール／ジステアリン酸エチレングリコール（じすてありんさんぐりこーる）	エステル類に分類される油性原料です。シャンプーやリンスにパール光沢を与えたり、乳濁感を与えるために配合されます。また増粘性を与える目的で、アイシャドー、眉墨、頬紅、ファンデーション、おしろい、クリーム、乳液、化粧水、パック、洗顔料などに使用されています。
ステアリン酸コレステリル（すてありんさんこれすてりる）	エステル類に分類される油性原料です。各種乳化物の優れた乳化助剤として、口紅などスティック製品の付着性を良くするために使用されています。
ヒドロキシ脂肪酸コレステリル／長鎖- α ヒドロキシ脂肪酸コレステリル（ひどろきししぼうさんこれすてりる）	エステル類に分類される油性原料です。羊の毛から得た脂の一種で、抱水力が高くモイスター効果に優れているので、美容液などに使用されています。
テトライソステアリン酸ペンタエリスリチル／テトライソステアリン酸ペンタエリスリット（てとらいそすてありんさんべんたえりすりちる）	エステル類に分類される油性原料です。粉体分散性に優れたエモリエント効果を持つ油で、口紅、おしろい、ファンデーション、クリーム、乳液などに使用されています。
テトラオクタン酸ペンタエリスリチル／テトラ2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリット（てとらおくとんさんべんたえりすりちる）	エステル類に分類される油性原料です。低温でも液状を保ち顔料の分散性に優れるため、様々な製品に使用されています。
トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン（とりいそすてありんさんとりめちろーるぷろぱん）	エステル類に分類される油性原料です。耐熱性、耐加水分解性に優れ、油性感が少なく展延性に優れ、コシのある感触を与えます。マッサージクリーム、軟膏、口紅、スキンオイルなどに使用されています。
トリカプリン酸グリセリル／トリカプリルグリセリル（とりかぶりんさんぐりせりる）	エステル類に分類される油性原料です。天然油脂に比べて酸化安定性に優れ、粘性が低く展延性に優れています。滑らかな感触を作り上げることが出来、他の化粧品との相溶性が良いため、エモリエント剤や油性成分として広く使用されています。
パルミチン酸オクチル（ぱるみちんさんおちる）	エステル類に分類される油性原料です。粘度が低く安定性に優れ、皮膚への刺激も少ないことからエモリエント剤として各種クリーム、乳液、メイクアップ化粧品、頭髪用化粧品に使用されています。
パルミチン酸セチル（ぱるみちんさんせちる）	エステル類に分類される油性原料です。パルミチン酸とセチルアルコールから成る固体のエステルで鯨ロウの主成分と同じ物です。配合すると光沢を良くしたり、粘度が増加することから、各種クリームや口紅に使用されています。
ヒドロキシステアリン酸コレステリル（ひどろきしすてありんさんこれすてりる）	エステル類に分類される油性原料です。抱水性がありエモリエント効果があり乳化安定性があることから、口紅などのスティック製品や各種化粧品の油性基剤として使用されています。
ミリスチン酸イソプロピル／IPM／イソプロピルミリスチート（みりすちんさんいそぷろびる）	エステル類に分類される油性原料です。化粧品用油性原料として使用されている代表的なエステルです。皮膚への浸透性が良く、配合するとさっぱりした感触を与えます。口紅やファンデーションなどのメイクアップ製品に配合すると品質を均一に保ちます。クリーム、ローションなどに配合すると、油っぽい感じを与えることなくエモリエントな感触を与えます。エタノールによく溶けるので、アルコール性ローションに配合すると柔軟な感じを与えます。石鹸やシャンプーに配合すると油性効果を上げることができます。ただし、皮膚に対して弱い刺激を与えと言われています。
ラノリン酸イソプロピル（らのりんさんいそぷろびる）	エステル類に分類される油性原料です。皮膚に塗ると液化し、柔軟でつやがりのびがよく、クリームや乳液や口紅に配合すると滑らかな感触を与えます。乳化安定剤として各種化粧品に使用されています。接触性皮膚発疹やアレルギー性皮膚炎の原因になると言われています。
リンゴ酸イソステアリル（りんごさんいそすてありる）	エステル類に分類される油性原料です。粘度の高い液体で、酸化しにくくべたつきがありません。クリーム、乳液、シャンプー、リンス、頭髪化粧品に使用されています。
ミリスチン酸（みりすちんさん）	ヤシ油やパーム核油を加水分解して蒸留精製して得られる油性原料です。白色の固体で特異な臭いがあります。エステルの原料として使われる事が多く、そのまま化粧品に使用されることはあまりありません。
イソノナン酸イソトリデシル（いそのなんさんいそとりでしる）	エステル類に分類される油性原料です。粘性が少なく皮膚への伸びや使用感に優れているため、エモリエント剤として、メイクアップ製品やクリームや乳液などに使用されています。
ヤシ油（やしゆ）	ココヤシの種子より採れる油脂です。構成脂肪酸はラウリン酸、パルミチン酸、カプリン酸で、ラウリン酸が最も多いため、冷たい水にも良く溶けて良く泡立ちます。牛脂と併用して石鹸の原料に使用されています。またマーガリンやショートニングの原料にも使用されています。
パーム油（ぱーむゆ）	マレーシアやインドネシアで生産されているアブラヤシの果肉を圧搾して得られる油脂です。牛脂と脂肪酸組成が似ていることから石鹸の原料として使用されています。パーム油はヤシ油に比べて泡の持続性が良いという性質があります。

パーム核油 (ぱーむかくゆ)	マレーシアやインドネシアで生産されているアブラヤシの果実の核を圧搾して得られる油脂です。ラウリン酸が主成分です。皮膚に対する刺激があるので単独で使用せず、牛脂などと併用されます。石鹼や洗剤の原料、また界面活性剤の原料に使用されています。
アルブチン (あるぶちん)	コケモモやウウルルナシや洋ナシの葉や皮から抽出され、メラニンの合成を抑える作用があると言われていました。メラニンは体内でチロシンという物質を原料としてチロシナーゼが酸化を促して作られますが、アルブチンはこのチロシナーゼの働きを抑制すると言われていたため、美白用の化粧品に配合されています。
エラグ酸 (えらぐさん)	南アフリカのタラというマメ科の植物を原料とするポリフェノールを含む化合物です。灰黄色の粉末で、水やエタノールにはほとんど溶けません。抗菌作用や金属イオン封鎖(キレート)作用がある他に、メラニンの生成に関与しているチロシナーゼの働きを抑制する効果があると言われ、美白化粧品などにも配合されています。
コウジ酸 (こうじさん)	味噌やお酒などに使われるコウジに含まれる発酵代謝成分です。メラニンを作り出す酵素チロシナーゼに働きかけてメラニンの生成を抑える作用があることから、美白化粧品に配合されています。
アスコルビン酸/ビタミンC (あすこるびんさん/びたみんC)	レモン、オレンジ等の果実や野菜等植物中に存在しています。コラーゲンの生成やたんぱく質代謝、糖質代謝、血管壁を強くし血小板の生成促進、赤血球の増加などの働きをします。皮膚色素の異常沈着の抑制・除去作用もあると言われています。水に溶けると非常に不安定になることから、使用する際は注射か経口投与が効果的で、外用での効果はあまり期待できません。
アスコルビン酸Na/アスコルビン酸ナトリウム (あすこるびんさんなとりうむ)	アスコルビン酸水溶液に炭酸水素ナトリウムを加え、2-プロパノールを加えて得られます。乾燥状態では割と安定していますが、吸湿状態では不安定で、水溶液中では徐々に酸化分解してしまいます。酸化防止や鮮度保持の目的で食品や、乳液、化粧水、クリームに使用されています。
アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム/リン酸L-アスコルビルマグネシウム (あすこるびんさんりんさんえすてるまぐねしうむ)	水溶性で不安定なビタミンCを安定化したものでビタミンC誘導体と呼ばれています。アスコルビン酸にオキシ塩化リンを作用させて得られます。生体内に取り込まれると酵素によって加水分解されビタミンCとしての働きをします。美白化粧品などに使用されています。
エリソルビン酸/イソアスコルビン酸 (えりそるびんさん/いそあすこるびんさん)	アスコルビン酸の異性体で、弱いビタミンC活性を示します。毒性の弱い酸化防止剤で食品に使用される他、乳液、クリーム、化粧水、日焼け止めクリームなどに使用されています。配合制限 0.05%以下
ステアリン酸アスコルビル (すてありんさんあすこるびる)	水溶性のアスコルビン酸をステアリン酸と合成(エステル化)し油性にした、ビタミンC誘導体です。油性にすることによって油脂の抗酸化剤の働きをすることから、クリーム等の油性の製品に酸化防止の目的で使用されています。
パルミチン酸アスコルビル (ぱるみちんさんあすこるびる/あすこるびんさんぱるみてーと)	アスコルビン酸とパルミチン酸を合成(エステル化)することで得られる油性のビタミンC誘導体です。油脂類に対する抗酸化性があることから、クリーム等の油性製品に酸化防止剤として使用されています。
ビタミンA油 (びたみんAゆ)	ビタミンA濃度の高いタラ・マグロ・メヌケなどの水産物の肝臓などから得る脂肪油か、植物油にビタミンAを加えたものをいいます。ビタミンAには成長促進作用、視覚作用、上皮細胞保護作用、細菌感染防止作用などが認められています。ビタミンAが欠乏すると、皮脂腺、汗腺の萎縮や角質化の不具合が起きて肌が乾燥状態になったり、細菌感染を起こしやすくなってニキビや吹き出物などのトラブルが多くなります。口紅、乳液、美容オイル、ヘアトニックなどに使用されています。
レチノール (れちのーる)	ビタミンAアルコールとも呼ばれています。視覚、聴覚、生殖などの機能保持や皮膚・粘膜の正常保持をする作用があると言われています。レチノールは角質層の保湿性を高め柔軟にする成分として、クリーム、乳液、化粧水、口紅に使用されています。
ビタミンB複合体 (びたみんBふくごうたい)	ビタミンBは単一のものではなく多くの物質の混合物で、これらを総称してビタミンB複合体と呼ばれています。ビタミンB1(抗脚気因子)、B2(栄養促進因子)、B6(抗皮膚炎性因子)、B12(抗貧血性因子)、ニコチン酸(抗ペラグラ性因子)、パントテン酸(抗脂肪肝因子)、ピチオン(抗卵白障害因子)などがあります。ビタミンB群は抗皮膚炎性作用や皮脂分泌調整作用があり、外用すると肌をなめらかにして肌荒れを治す効果があります。全て水溶性(水に溶けるが油に溶けないため、経皮吸収されない)で、体内の代謝に関与していると言われています。
リボフラビン/ラクトフラビン/ビタミンB2 (りぼふらびん/らくとふらびん/びたみんB2)	ビタミンB複合体の中の成長促進因子です。リボフラビンが欠乏すると、くちびるにただれ・荒れなどの症状が表れると言われています。石鹼、シャンプー、リンス、洗顔料、クリーム、乳液、化粧水などに使用されています。
ビタミンB6ジカプリル酸エステル/ジカプリル酸ピリドキシン (びたみんB6じかぷりるさんえすてる/じかぷりるさんびりどきしん)	ビタミンB群は水溶性で油脂に溶けないことから、経皮吸収しません。これを経皮吸収しやすくするために油性にしたものです。皮脂の分泌を抑える抗脂漏剤として、また肌荒れやニキビや日焼けに対する治療効果を期待して、クリーム、乳液、化粧水などに使用されています。
ピリドキシンHCl/塩酸ピリドキシン/ビタミンB6塩酸塩 (びりどきしんHCl/えんさんびりどきしん/びたみんB6えんさんえん)	熱や酸・アルカリには安定していますが光(紫外線)に弱く、酸化に対しても不安定な物質です。ビタミンB6欠乏症の予防や治療に内服や注射などで用いられます。また、皮脂の分泌を抑える目的で化粧水やクリームに使用されていますが水溶性なので経皮吸収は期待できません。

イノシトール／イノシット (いのしとーる／いのしつと)	穀類に含まれるフィチン酸を加水分解して得られるビタミンB群の一つです。脱毛予防効果や皮膚病予防効果を期待して、頭髮製品、クリーム、乳液、化粧水などに使用されています。
ビオチン／ビタミンH (びおちん／びたみんH)	ビタミンB複合体の一つで、皮膚に効果のあるビタミンという意味からビタミンHと名付けられました(ドイツ語で皮膚はHaut)。卵黄・肝臓・牛乳・穀物に多く含まれています。欠乏すると肌が荒れたりフケが多くなったりします。頭髮化粧品および乳液、クリームに使用されています。
パントテン酸 (ぱんとてんさん)	水溶性ビタミンの一種で、神経障害の回復や肝機能・副腎機能の改善やコレステリンの血管への沈着防止などの効果があります。また皮膚疾患を起こすと血中のパントテン酸の量が低下すると言われています。パントテン酸は毛髪の成長に関係があると言われており、育毛剤やヘアトニックなどの頭髮化粧品や、肌荒れ用のクリームなどに使用されています。
ナイアシン／ニコチン酸 (ないあしん／にこちんさん)	ビタミンB複合体の一つで、欠乏すると皮膚炎や消化障害を起こしたり精神機能の異常にもつながるとされています。酵母・胚芽・米ぬか・肝臓・豆類・落花生などに多く含まれています。投与した場合、一時的な皮膚温の上昇(ほてり)、皮膚紅潮、発汗などの末梢血管の拡張作用がありますが、皮膚に対する作用は未だ明らかにされていませんが、シャンプーやリンスに使用されています。
ビタミンD2／エルゴカルシフェロール (びたみんD2／えるごかるしふえろーる)	脂溶性の物質で、シタケなどのキノコ類に微量に含まれています。骨や歯の発育を促進させて、かぶれや神経過敏を抑制する効果があると言われています。不足すると皮膚は乾燥肌になってしまいます。クリーム、ヘアトニック、石鹸などに使用されています。
ビタミンD3／コレカルシフェロール (びたみんD3／これかるしふえのーる)	脂溶性の物質で、魚の肝油中やバターや卵黄などに多く含まれています。骨や歯の発育を促進させ、皮膚のかぶれを抑える作用があると言われています。不足すると皮膚は乾燥肌になってしまいます。頭髮化粧品などに使用されています。
ニコチン酸トコフェロール／ニコチン酸dl- α -トコフェロール (にこちんさんことふえろーる／びたみんEにこちねーと)	ビタミンE誘導体の一つです。血行促進作用や皮膚温度上昇作用に優れていて、養毛効果も認められています。毛髪成長促進剤として、シャンプーやヘアトニック・育毛剤に使用されています。
酢酸トコフェロール／ビタミンEアセテート／酢酸dl- α -トコフェロール (さくさんとこふえろーる／びたみんEあせてーと)	α -トコフェロールを酢酸エステル化して得られる合成ビタミンEです。皮膚に対して末梢血管拡張作用・血行促進作用があることから、血行を盛んにして、肌荒れや日焼けによるシミ・ソバカスや脱毛を防止することを期待し、各種化粧品に配合されています。皮膚に対して弱い刺激があります。
抗菌剤／防腐剤／殺菌剤 (こうきんざい／ほうふざい／さっきんざい)	一般に抗菌剤とは、防腐剤と殺菌剤の両方を指します。化粧品において防腐剤を配合する目的は、製品が微生物の繁殖によって腐敗・変敗するのを防ぐためです。一方殺菌剤を配合する目的は、皮膚や頭皮を消毒し清潔に保つためです。また同じ成分でも、濃度が低いと防腐剤として、濃度が高いと殺菌剤として扱われます。すなわち、殺菌剤の方が防腐剤よりも人体への影響が大きいと言えます。
安息香酸 (あんそくこうさん)	元来は天然樹脂の安息香樹脂から得られますが、現在は化学合成により得られたものが使用されています。わずかに臭いのある白色の結晶粉末です。静菌作用は強いのですが殺菌作用はあまりありません。pH(ペーハー)5.5以上(アルカリ性)ではほとんど効果を示さないとされています。防腐剤として、メイクアップ化粧品、クリーム、香油、頭髮化粧品に使用されています。表示指定成分 - 配合制限 0.2%以下
表示指定成分 - 配合制限 0.2%以下	
安息香酸塩／安息香酸Na (あんそくこうさんえん)	安息香酸を塩にしたもので、臭いのない白色の結晶粉末で、甘い味がします。防腐剤として、クリーム・乳液・化粧水・ねりおしろい・ヘアローションなどに使用されています。医薬用として、肝臓機能障害時の診断にも使用されています。安息香酸塩はエフェラスコーションに配合されています。表示指定成分 - 配合制限 1%以下
表示指定成分 - 配合制限 1%以下	
パラベン (ぱらべん)	防腐剤として化粧品のほとんどの商品群に使用されています。パラベンとは総称のことで、パラベンと呼ばれる成分には次のものがあります。パラオキシ安息香酸イソブチルエステル。パラオキシ安息香酸イソプロピルエステル。パラオキシ安息香酸エチルエステル。パラオキシ安息香酸ブチルエステル。パラオキシ安息香酸プロピルエステル。パラオキシ安息香酸メチルエステル。いずれも白色の結晶粉末です。サリチル酸や安息香酸に比べると毒性が低く刺激も少ないと言われています。パラベンは単独使用ではなく他の抗菌剤と併用することによって、より少量で効果を高めることが出来ます。表示指定成分 - 配合制限 1%以下
パラオキシ安息香酸イソブチルエステル／パラベン (ぱらおきしあんそくこうさんいそぶちるえすてる／ぱらべん)	パラベンを参照。
パラオキシ安息香酸イソプロピルエステル／パラベン (ぱらおきしあんそくこうさんいそぷろびるえすてる／ぱらべん)	パラベンを参照。
パラオキシ安息香酸エチルエステル／エチルパラベン (ぱらおきしあんそくこうさんえちるえすてる／えちるぱらべん)	パラベンを参照。
パラオキシ安息香酸ブチルエステル／パラベン (ぱらおきしあんそくこうさんぶちるえすてる／ぱらべん)	パラベンを参照。
パラオキシ安息香酸プロピルエステル／パラベン (ぱらおきしあんそくこうさんぷろびるえすてる／ぱらべん)	パラベンを参照。
パラオキシ安息香酸メチルエステル／パラベン (ぱらおきしあんそくこうさんめちるえすてる／ぱらべん)	パラベンを参照。

パラオキシ安息香酸メチルエステル／水酸化安息香酸メチルエステル／メチルパラベン（ばらおきしあんそくこうさんめちるえすてる／すいさんかあんそくこうさんめちるえすてる／めちるばらべん） メトキシケイヒ酸オクチル／パルソールMCX／ネオヘリオパンAV（めときしけいひさんおくちる）	パラベンを参照。 1960年代に開発されたケイ皮酸系の紫外線吸収剤です。炎症（サンバーン）を起こす中波長の紫外線(UVB)を吸収すると言われ、日焼け止め化粧品に使用されています。
アラントイン（あらんといん）	牛の羊膜の分泌液から発見された物質です。細胞増殖作用があることから、傷や火傷や皮膚疾患、或いは唇の荒れ用のクリームなどに使用されています。また刺激のある成分に配合することによって刺激を和らげる（抗刺激）作用があることから、刺激性やアレルギー性の強いものと併用して使用されます。
アミノカブロン酸／6-アミノヘキサノン酸（あみのかぶろんさん／あみのへきさのんさん）	中性アミノ酸で白色の結晶・結晶粉末です。抗ヒスタミン剤と呼ばれ、出血や炎症やアレルギー症状を改善すると言われています。出血や歯周炎の予防の目的で歯磨きなどに配合されています。皮膚への刺激がある成分を含んだ化粧品には、刺激を抑制する目的で使用されています。
塩化デカリニウム（えんかでかりにうむ）	口臭の予防を目的として配合される消臭剤です。化粧品などへの配合は認められていません。配合できるのは歯磨きだけです。配合制限 0.001%以下
ヨウ化ジメチルアミノステリルヘプチルメチルチアゾリウム／ヨウ化パラジメチルアミノステリルヘプチルメチルチアゾリウム（ようかじめちるあみのすちりるへぶちるめちるちあぞりうむ／ようかばらじめちるあみのすちりるへぶちるめちるちあぞりうむ） イソプロピルメチルフェノール／シメン-5-オール（いそぶろびるめちるふえのーる）	ビタミンB1に類似したチアゾロステリル系化合物です。輝赤色の結晶・結晶粉末で特異臭があります。水には溶けずエチルアルコールにわずかに溶けます。刺激の無い殺菌剤として、また酸化防止剤として化粧品に幅広く使用されています。配合制限 0.001%以下
グリチルリチン酸（ぐりちるりちんさん）	白色或いは無色でほとんど臭いのない抗菌剤です。殺菌力や抗菌力の他に収れん性や抗酸化性、紫外線吸収性があります。化粧品には防腐剤、殺菌剤として0.1%以下で配合が認められており、医薬品の外用剤には0.3%以下の配合が認められています。配合制限 0.1%以下 カンゾウの根茎から得られるグリチルリチン酸水溶液を酸性にすることで得られる有効成分です。水で20000倍に薄めても感じられるほどの甘味があります。抗炎症・抗アレルギー作用があり、皮膚炎に効果があるといわれています。ステロイドに比べて作用は緩和で、副作用もほとんどないといわれ、各種化粧品や頭髪化粧品に使用されています。
4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン／t-ブチルメトキシジベンゾイルメタン（ぶちるめときしじべんぞいるめたん）	紫外線吸収剤です。淡黄色～黄色の粉末で、わずかに特異臭があります。水には溶けず油に溶けるという性質をもっています。UVAの紫外線吸収剤として基礎化粧品などに使用されています。日焼け止めとして配合される際は、UVB吸収剤と組み合わせで配合されます。肌が敏感な方の場合、刺激の原因となることもあります。
パラジメチルアミノ安息香酸2-エチルヘキシル／パラジメチルアミノ安息香酸オクチル／エスカロール507／ジメチルPABAオクチル（じめちるおくちる）	紫外線吸収剤です。エチルヘキシルアルコールとジメチルアミノとのエステルです。UVB域に吸収極大をもちサンバーンを防止し、わずかに臭いがあります。日焼け止めクリーム、ローション、ネイルエナメル、香水、口紅、などに使用されています。
フェノキシエタノール／エチレンジグリコールモノフェニルエーテル（ふえのきしえたのーる／えちれんぐりこーるものふえにえーてる） パルソール1789、パルソールA／t-ブチルメトキシジベンゾイルメタン（ばるそーる／ぶちるめときしじべんぞいるめたん） オキシベンゾン／オキシベンゾン3（おきしべんぞん）	グラム陰性菌に対して有効な殺菌作用のある薬剤です。わずかに芳香があり無色～淡黄色の液体です。化粧品には1%以下で使用されます。パラベンやデヒド酢酸と組み合わせで使用されます。配合制限 1%以下 紫外線吸収剤です。わずかに特異臭があり水に溶けませんが若干油に溶けます。UVAの紫外線吸収剤として、メイクアップ化粧品や基礎化粧品に使用されています。敏感な肌に対して刺激の原因となる場合があります。 紫外線吸収剤です。UVAからUVBまで広い範囲の吸収波長領域を持っているため、サンバーン・サンタンを防止する効果があります。配合上限は、一般的なものは5%以下ですが、マスカラ・アイブローは1%以下、アイライナーは0.02%以下となっています。飲むと少量でも吐き気をもよおし、多量だと呼吸困難、けいれん、ひきつけ、循環系の衰弱などを起こします。配合制限 5%以下
アルコール類（あるこーるるい）	アルコール類は、多価アルコールと一価アルコールに大別されます。多価アルコールはグリセロールやソルビトール、キシリトールなど多くのものが保湿剤として使用されています（多価アルコールの詳細は保湿剤のカテゴリをご覧ください）。一価アルコールは更に高級（分子中の炭素が多いの意）アルコールと低級（分子中の炭素が少ないの意）アルコールに分類され、化粧品全般に広く使用されています。
ステアリルアルコール（すてありるあるこーる）	代表的な高級アルコールで、鯨ロウ・マッコウ鯨油からセタノールと一緒に得られ、またはオレイルアルコールに水素添加しても得られます。乳化製品の白色化を促し、光沢を与えることから、クリーム類や乳化製品の油性原料として使用されています。
セタノール／セチルアルコール／パルミチルアルコール（せたのーる／せちるあるこーる／ばるみちるあるこーる）	鯨ロウ・マッコウ鯨油を加水分解して、或いはヤシ油や牛脂を還元分留して得られる高級アルコールです。クリームや乳液に配合すると非常に安定性が向上し、光沢を与えることから、口紅などのスティック製品の油性原料として使用されています。
ラノリンアルコール（らのにんあるこーる）	ラノリンを加水分解・精製して得られる高級アルコールです。コレステロールを多く含むので保水性や乳化性に優れ、油性原料や乳化補助剤として各種化粧品に使用されています。
イソプロパノール（いそぶろぱのーる）	低級アルコールに分類されます。香油や脂肪分などの分散を水中で均一し、香気の発散を良好にします。収れん作用や殺菌作用があり、消毒液などにも使用されています。

エタノール／酒精（えたのーる／しゅせい）	わずかに特有の芳香がある無色透明な揮発性の低級アルコールです。清浄、殺菌、収れん、の目的で各化粧品に使用され、また各種物質を溶解する性質もあることから溶剤としても使用されています。酒精はエフェラスコローションに配合されています。
環状アルコール（かんじょうあるこーる）	環状構造（ドーナツ型）を持つアルコール系有機化合物です。主に清涼感を与える目的で頭髮化粧品や歯磨きなどに使用されています。
着色料（ちゃくしよくりょう）	化粧品に配合される着色料は、有機合成色素（タール色素）、天然色素、無機顔料に大きく分類されます。また真珠光沢顔料や高分子粉体、機能性顔料と呼ばれるものも使用されています。着色料は人体に有害なものも多く、化粧品に使用される着色料は安全性が十分に保証されたものでなければなりません。
有機合成色素／タール色素（ゆうきごうせいしきそ／たーるしきそ）	色調が豊富で鮮明なことから化粧品の原料として使用されていますが、皮膚刺激性、発ガン性、毒性のあるものも多いことから、安全性が確認されたもののみ使用基準が設けられています。この有機合成色素（タール色素）は更に3つに分けることができ、染料、レーキ、有機顔料に分類されています。
天然色素（てんねんしきそ）	植物界、動物界に存在するものと微生物により生産されるものがあります。天然色素はタール色素に比較して、高価でなおかつ着色力が弱く変色しやすいということから、あまり化粧品に使用されていませんが、安全性の面でタール色素に勝っていることはいうまでもありません。
無機顔料（むきがんりょう）	無機物質からなる顔料です。化粧品に使用される無機顔料は3つに分けられ、着色顔料、白色顔料、体質顔料に分類されています。
アスタキサンチン（あすたきさんちん）	天然色素に分類されます。カロチノイド系色素と呼ばれるものの一種で、甲殻類に多く含まれています。エビやカニをゆでると赤くなるのはこのアスタキサンチンによるものです。抗酸化色素と呼ばれ、シワやシミの改善のために使用されることもあります。
カカオ色素（かかおしきそ）	天然色素に分類されます。カカオ豆から得られるチョコレート色をした色素です。pH（ペーハー）による色調変化はなく、熱にも安定しています。加熱すると色が濃厚になります。
カプサンチン（かぷさんちん）	天然色素に分類されます。パプリカの果皮から得られる橙～赤の色素です。水溶性のものと油溶性のものがあります。
β-カロチン／カロチン（べーたかるちん）	天然色素に分類されます。植物界では、葉、花、果実、根などに、動物界では、血液、臓器、脂肪、卵黄、乳に存在しているカロチノイド系と呼ばれる色素の一種です。天然色素として使用される他に、ビタミンAの誘導体として、整肌、紫外線防御、代謝調整などの効果があると言われています。色素として乳液やクリームや美容オイルに、またマーガリンやバターなどに使用されています。
クロシン（くろしん）	天然色素に分類されます。サフランの雌ズイやクチナシの果実から得られる黄赤色の色素です。化粧品やめん類に使用されています。
クロロフィル／葉緑素（くろろふいる）	天然色素に分類されます。緑葉植物に広く分布しています。暗青色または暗緑色の粉末か油性ペースト状の物質で、水には溶けずアルコールや油脂にしか溶けません。クリームやローションに使用される他、粉ワサビや水ようかんなどに使用されています。
銅クロロフィルナトリウム（どうくろろふいりんなとりうむ）	天然色素に分類されます。クロロフィル分子中のマグネシウムを銅に置換し、水酸化ナトリウムで加水分解して作られます。脱臭効果もあることから歯磨き、マウスウォッシュ、チューインガムにも使用されています。
結晶セルロース（けっしょうせるろーす）	天然色素に分類されます。木材、綿、麻など植物の細胞膜の主成分です。カビなどの微生物に強く、おしろい類（粉おしろい、固形おしろい等）、紅類（口紅、ほお紅等）、ファンデーション類、アイメイクアップ類（プレスアイシャドー、アイライナー）などに使用されています。
コチニール／カルミン酸（こちにーる）	天然色素に分類されます。中南米に自生するサボテンに寄生している昆虫のエンジムシの雌の乾燥粉末から得られる赤色色素です。カルミン酸を主成分として、脂肪、ロウ、灰分を含んでいます。口紅、ほお紅、アイシャドー、石鹸、シャンプー、リンスなどに使用されています。
雲母／マイカ、キララ（うんも／まいか／きらら）	無機顔料の中の体質顔料に分類されます。含水ケイ酸アルミニウムカリウムが主成分で、花こう岩や雲母片岩や片麻岩に多く含まれています。淡灰色粉末で、白色顔料やパール効果剤などの目的でメイクアップ化粧品に使用されています。
カオリン／白陶土（かおりん）	無機顔料の中の体質顔料に分類されます。白色の粉末で天然の含水ケイ酸アルミニウムのことです。粒子が極めて小さいため表面積が大きく吸収力が強く、被覆力もあるため製品に配合すると皮膚への付きがよくなります。おしろい、ベビーパウダー、化粧水に使用されています。
赤色2号（あかいろにごう）	タール色素に分類されるモノアゾ系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
赤色3号（あかいろさんごう）	タール色素に分類されるキサンチン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
赤色102号（あかいろひやくにごう）	タール色素に分類されるモノアゾ系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
赤色104号の(i)（あかいろひやくよんごうのいち）	タール色素に分類されるキサンチン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。

赤色105号の(1) (あかいろひやくごうのいち)	タール色素に分類されるキサンチン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
赤色106号 (あかいろひやくろくごう)	タール色素に分類されるキサンチン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
黄色4号 (きいろよんごう)	タール色素に分類されるピラゾール系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
黄色5号 (きいろごごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
緑色3号 (みどりいろさんごう)	タール色素に分類されるトリフェニルメタン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
青色1号 (あおいろいちごう)	タール色素に分類されるトリフェニルメタン系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
青色2号 (あおいろにごう)	タール色素に分類されるインジゴイド系の酸性染料です。食品添加物としても許可されているものなのでタール色素の中では比較的安全性が高いと言われています。
赤色201号 (あかいろにひやくいちごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色202号 (あかいろにひやくにごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。これを配合した口紅を使用した結果接触性皮膚炎を起こしたという報告が多数あるようです。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色203号 (あかいろにひやくさんごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。米国では化粧品への使用は禁止されています。
赤色204号 (あかいろにひやくよんごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。米国では化粧品への使用は禁止されています。
赤色205号 (あかいろにひやくごごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色206号 (あかいろにひやくろくごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色207号 (あかいろにひやくなごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色208号 (あかいろにひやくはちごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色213号 (あかいろにひやくじゅうさんごう)	タール色素に分類されるキサンチン系の塩基性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。米国では化粧品への使用は禁止されています。
赤色214号 (あかいろにひやくじゅうよんごう)	タール色素に分類されるキサンチン系の塩基性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色215号 (あかいろにひやくじゅうごごう)	タール色素に分類されるキサンチン系の油溶性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色218号 (あかいろにひやくじゅうはちごう)	タール色素に分類されるフルオラン系の油溶性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色219号 (あかいろじゅうきゅうごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。皮膚障害のひとつである顔面黒皮症の原因になることがわかっています。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色220号 (あかいろにひやくにじゅうごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色221号 (あかいろにひやくにじゅういちごう)	タール色素に分類されるモノアゾ系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
赤色223号 (あかいろにひやくにじゅうさんごう)	タール色素に分類されるフルオラン系の油溶性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。

黄色405号(きいろよんひやくごう)	タール色素に分類されるアゾ系の油性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
黄色406号(きいろよんひやくろくごう)	タール色素に分類されるアゾ系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
黄色407号(きいろよんひやくなごう)	タール色素に分類されるアゾ系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
緑色401号(みどりいろよんひやくいちごう)	タール色素に分類されるニロン系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
緑色402号(みどろいろよんひやくにごう)	タール色素に分類されるトリフェニルメタン系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
青色403号(あおいろよんひやくさんごう)	タール色素に分類されるアントラキノン系の油性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
青色404号(あおいろよんひやくよんごう)	タール色素に分類されるフタロシアニン系の顔料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
紫色401号(むらさきいろよんひやくいちごう)	タール色素に分類されるアントラキノン系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
黒色401号(くろいろよんひやくいちごう)	タール色素に分類されるアゾ系の酸性染料です。発ガン性や肝臓腫の原因になる可能性が高いことから、化粧品への配合は認められていますが食品への添加は禁じられています。
酸化亜鉛／亜鉛華(さんかあえん)	無機顔料の中の白色顔料に分類されます。金属亜鉛を強熱して酸化するか、炭酸亜鉛を熱分解して製造します。被覆力が優れているのでおしろい類、カラミンローション、ネイルエナメル用に使われています。また紫外線遮断効果があると言われていたことからサンスクリーン化粧品にも使用されています。
酸化アルミニウム／アルミナ(さんかあるみにうむ)	無機顔料の中の白色顔料に分類されます。可溶性のアルミニウム塩の水溶液から水酸化アルミニウムを沈殿させてろ過し、強熱して得ることができます。白色粉末で、水に溶けず無臭です。メイクアップ化粧品や歯磨きに使われています。
酸化ジルコニウム(さんかじるこにうむ)	無機顔料の中の白色顔料に分類されます。鉱石を分解して得た酸化ジルコニウムの結晶にアンモニア水を加えて水酸化ジルコニウムとし、それを乾燥粉砕したものです。白色の微細な粉末で、ガラスと同程度の硬さをもっています。紫外線や赤外線を散乱すると言われていたります。
酸化チタン(さんかちたん)	無機顔料の中の白色顔料に分類されます。イルメイト鉱を原料とし、酸処理、抽出など化学処理をして製造されます。被覆力と着色力に優れ、紫外線遮断作用があることから、酸化アルミニウムで処理されたものが、乳液、クリーム、日焼け止めなどに使われています。
黄酸化鉄／酸化鉄／フェリットエロー、マルスエロー(おうさんかてつ)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。オキシ水酸化鉄および水酸化第二鉄からなる黄色の合成色素です。耐熱、耐光に優れています。
カーボンブラック(かーぼんぶらっく)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。天然ガスや液状炭化水素を不完全燃焼または熱分解して得られる炭素です。微粉末の黒色顔料で、眉墨、マスカラ、アイライナーなどに使われています。
ゲンジョウ／群青(ぐんじょう)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。イオウ、ケイ酸アルミニウム、カーボンブラックなどを原料として合成されます。粉末顔料で、青色からピンクに近いものまで美しい色があります。耐熱性、耐光性があり、アイライナー、マスカラ、アイシャドウ、眉墨、口紅などに使われています。
黒酸化鉄／酸化鉄(こくさんかてつ)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。四三酸化鉄からなる黒色の粉末です。カーボンブラックほど着色力は強くないため調色が容易です。マスカラ、アイライナー、眉墨などに使われています。
コンジョウ／紺青(こんじょう)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。粉末の青色顔料です。金属光沢があるブロンズと、金属光沢の無いノンブロンズがあります。空気、日光、酸に強い反面、アルカリに弱い(退色する)のが特徴です。メイクアップ化粧品、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどの接着剤に使われています。
酸化クロム(さんかろくむ)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。クロム鉄鉱から合成されます。三二酸化クロムからなる暗緑色の顔料です。被覆力、着色力に優れ、アイメイクアップ製品に使われています。
水酸化クロム(すいさんかろくむ)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。含水酸化クロムの青緑色の緑色顔料です。吸油性が強く、油を吸収して透明な濃い緑色になります。退色しにくい特徴があり、アイメイクアップ製品などに使われています。
ベンガラ／酸化鉄(べんがら)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。インドのベンガル地方で採れる天然の酸化鉄の名称ですが、現在は合成されたものが主流となっています。暗赤色～赤褐色の粉末の赤色顔料です。日光、熱、空気、水に強く、ファンデーション、アイカラー、眉墨などに使われています。
マンガンバイオレット／ピロリン酸マンガンアンモニウム(まんがんばんいおれつと)	無機顔料の中の着色顔料に分類されます。薄紫～暗紫色粉末の紫色顔料です。着色剤としてメイクアップ製品に使われています。

シリカ／無水ケイ酸（しりか／むすいけいさん）	無機顔料に分類される着色料です。大きな表面積を持ち吸収性が強く、ふんわりとした感じの被覆力と製品を不透明にする性質があります。各種パウダーに使用されています。またクリームや乳液には、増粘剤としても使用されています。
タルク（たるく）	含水ケイ酸マグネシウムが主成分の微粉です。古くからおしろいやメイクアップの下地として使用されてきました。皮膚に塗布するとすべりや吸着力が良くなります。また酸化チタンのつや消しとしても使用されます。フェイスパウダー、アイシャドウ、ベビーパウダーなどに使用されています。
皮膜形成剤（ひまくけいせいざい）	化粧品には様々な皮膜形成剤が配合されています。パックに使用されるものをはじめとし、ヘアスプレーの皮膜は髪の毛をセットするのに効果があり、シャンプーやリンスの皮膜は使用感を良くし、枝毛コートは毛髪の保護をします。アイライナーやマスカラには耐水性皮膜が使われ汗や涙による化粧くずれを防ぎ、ネイルエナメルには非溶解性の皮膜剤が使用されています。
アクリル酸アミド・アクリル酸アルキル・メタクリル酸メキシポリエチレングリコール共重合体／アクリルアミド／アクリル酸アルキル／アクリルアルキルDMAPA／メタクリル酸メキシPEG（あくりるさんあみどあくりるさんあるきるめたくりるさんめときしぼりえちれんぐりこーるきょうじゅうごうたい）	白色～淡黄色の塊状、粒状または粉状の固体で、わずかな特異臭があります。皮膜形成剤としてメイクアップ化粧品や頭髮化粧品に使用されています。
ウン血清アルブミン（うしけっせいあるぶみん）	ウンの血液から得られる血清たんぱく質です。水に溶けて熱で凝固する性質があります。白色～淡黄色の粉末で、わずかな特異臭があります。基礎化粧品、シャンプー、リンスなどに使用されています。
エイコセン・ビニルピロリドン重合体／（エイコセン、ビニルピロリドン）コポリマー（えいこせん・びにるびろりどんじゅうごうたい）	微黄色のワックスで、わずかな特異臭があります。顔料の分散安定性に優れており、耐水性機能を持つ皮膜を形成するので、メイクアップ化粧品やサンスクリーン剤に使用されています。
エステルガム／アビエチン酸グリセリル（えすてるがむ／あびえちんさんぐりせりる）	淡黄色～淡褐色の透明なガラス状の塊です。皮膜に光沢を与える特徴があり、主にネイルエナメルに配合される他、口紅、リップクリーム、アイライナー、マスカラ、ほお紅、おしろい類、ファンデーション、日焼け止めクリームなどに使用されています。
2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール／AMP（にあみのにめちるいちぷろぱのーる）	天然ガスをニトロ化して得られるニトロプロパンをホルムアルデヒドと反応させて得られる物質です。脂肪酸と併用して乳化剤として用いられます。シャンプー、リンス、アイライナー、マスカラ、ファンデーション、石鹸、クリーム、乳液などに使用されています。
ジエタノールアミン／DEA（じえたのーるあみん）	アンモニアと酸化エチレンの反応によって得られる物質です。脂肪酸と反応してエタノールアミン石鹸を作ります。乳化剤としてクリームやローションに用いられます。ラウリン酸やヤシ脂肪酸の硫酸エステルをこの物質で中和した製品は、シャンプーとしてよく使用されています。
水酸化カリウム／苛性カリ／水酸化K（すいさんかかりうむ）	脂肪酸と結合して石鹸（カリ石鹸）となります。クリームや乳液などの乳化剤として用いられます。化粧水のアルカリ剤（pH調整剤）としても使用されています。
水酸化ナトリウム／苛性ソーダ／水酸化Na（すいさんかなとりうむ）	石鹸製造における重要な原料です。脂肪酸と結合して石鹸を作る他、乳化剤としてクリームや乳液などに用いられます。
トリエタノールアミン／TEA（とりえたのーるあみん）	アンモニア水と酸化エチレンの反応によって得られる物質です。乳化剤として良質のクリームや乳液やローションに用いられる他、口紅やアイシャドーやファンデーションなど多くの化粧品に広く用いられています。また石鹸や界面活性剤の原料としても用いられ、エモリエント効果があることから保湿剤としても用いられ、化粧品の原料として大変重宝されていますが、皮膚から吸収されると皮膚や粘膜や眼を刺激し、亜硝酸と反応すると発ガン性物質を作ると言われています。
ホウ酸Na（ほうさんなとりうむ）	弱い防腐力を持つ無色の結晶～白色結晶性粉末です。コールドクリームの基礎原料として、或いはパーマメントウェーブ用剤第一液やセットローションに使用されています。
保湿剤（ほしつざい）	保湿剤は製品の水分蒸発を防ぐと共に、皮膚表面の水分の調節をし、しっとり感を与えるために配合されます。「多価アルコール」と「生体系保湿成分」に分類されます。
グリセロール／グリセリン（ぐりせろーる／ぐりせりん）	多価アルコールに分類される保湿剤です。グリセロールは少量ですが、皮脂膜の分解によって生成する天然の皮膚成分でもあります。古くから用いられてきた保湿剤で、非常に吸湿性が良く多くの化粧品に使用されています。石鹸或いは脂肪酸を製造する際に副産物として発生したものを脱水などの精製を経て得られる無色無臭の粘性液体です。皮膚に対して柔軟効果があり、うるおいを与えます。グリセロールはエフェラスコローションに配合されています。
キシリトール／キシリット（きしりとーる／きしりっと）	多価アルコールに分類される保湿剤です。糖アルコールの一種で無臭で甘味があります。各種クリームやローションなどに使用されています。また、歯のエナメル質が溶けるのを抑制する働きがあることから、歯磨きに配合されています。

d-ソルビトール／ソルビット (d-そるびとーる／そるびと)	多価アルコールに分類される保湿剤です。動物・植物界に存在し、海藻や果物に多く含まれています。化粧品に使われるソルビトールは精製ブドウ糖を還元して得られる白色の粉末で清涼な甘味があります。吸湿性はグリセロールなど他の保湿剤に比べて緩和ですが、乾燥に対して水分を一定に保つ性質があり、柔軟効果もあることから各種化粧品に使用されています。また高濃度でも全く毒性・刺激性が無いことから、歯磨きにも配合されています。d-ソルビトールはエフェラスコローションに配合されています。
ジプロピレングリコール／DPG (じぷろびれんぐりこーる)	多価アルコールに分類される保湿剤です。無色透明で粘性のある液体でわずかに特異臭があります。製品ののびや滑りを良くする柔軟剤として各種化粧品に使用されています。
ブチレングリコール／BG (ぶちれんぐりこーる)	多価アルコールに分類される保湿剤です。無色無臭の液体で、適度な潤湿性と抗菌力があり、毒性が低く、各種クリーム、乳液、エアゾール製品に使用されています。
プロピレングリコール／PG (ぷろびれんぐりこーる)	多価アルコールに分類される保湿剤です。無臭・透明な液体で、粘度が低いのでさっぱりしており使用感に優れています。エモリエント剤、柔軟剤、保湿剤としてまた、溶剤としても優れているので、可溶化剤として、各種化粧品に使用されています。消化管から容易に吸収されると言われています。
表示指定成分	
ポリエチレングリコール200～600／PEG4～12／ペグ4～12 (ぼりえちれんぐりこーる／ペグ)	多価アルコールに分類される保湿剤です。酸化エチレンの重合体で水溶性の物質です。クリーム、乳液、石鹸、シャンプー、リンスなどに使用されています。PEGは、分子量によって沢山の種類があり、次のものは肝臓や腎臓障害または発ガン促進作用があると言われているため注意が必要です。PEG4、PEG6、PEG8、PEG12
ポリエチレングリコール1000～／PEG20～／ペグ20～ (ぼりえちれんぐりこーる／ペグ20～)	多価アルコールに分類される保湿剤です。酸化エチレンの重合体で水溶性の物質です。PEGは、分子量によって沢山の種類があり、PEG20、PEG30、PEG32、PEG40、PEG80、PEG120、PEG220、PEG400、に分類されています。刺激も無く、クリーム、乳液、石鹸などに使用されていますが、表示名称が分子量600以下(PEG12以下)のものと同様しているため間違えないよう注意が必要です。エフェラスコローションにはPEG40(ポリエチレングリコール2000)が配合されています。
メチルグルセス／ポリオキシエチレンメチルグルコシド (めちるぐるせす／ぼりおきしえちれんめちるぐるこしど)	多価アルコールに分類される保湿剤です。スキンコンディショニング剤として用いられます。保湿作用、エモリエント作用、刺激緩和作用があり、化粧石鹸やクリームや化粧水に使用されています。
マルチトール (まるちとーる)	多価アルコールに分類される保湿剤です。麦芽糖のマルトースを還元して得られるマルビットの水溶液です。吸湿性や保湿性は、グリセロールやソルビトールに比べてやや弱いのですが、大気中の湿度に影響される事が少ないという特徴を持っています。保湿剤として各種化粧品に使用されている他、食品や医薬品にも使用されています。
マンニトール／D-マンニット (まんにとーる／まんにと)	多価アルコールに分類される保湿剤です。モクセイ科植物汁液の乾燥物(マンナ)から得られ、自然界に広く存在する糖アルコールです。化学的に安定しており酸化されないため、ビタミンやアミノ酸を配合している化粧品に使用されます。また界面活性剤の原料としても使用されています。
天然保湿因子／NMF (てんねんほしついんし)	NMFとは皮膚角質内の天然保湿因子のことです。角質層が水分保持をするために皮脂腺から分泌される保湿成分を指します。主な成分は、遊離アミノ酸(40%)、ピロリドンカルボン酸(12%)、乳酸(12%)、尿素(7%)、アンモニア・尿酸・グルコサミン・クレアチニン(1.5%)、無機塩(18.5%)、糖類(9.5%)です。このNMFの分泌量が減少すると肌荒れが起こります。
アクアライザーEJ (あくらいざー)	NMF成分に最も近い機能を備えた合成保湿成分です。アミノ酸と還元糖をアルコール溶液で縮合させて、塩化ナトリウムその他を添加したものです。皮膚のphや水分量を調整する目的で化粧品に配合されます。
プロデュウ (ぷろでゅう)	アミノ酸系の保湿剤で、DL-ピロリドンカルボン酸とL-プロリンと乳酸ナトリウムとソルビトールと加水分解コラーゲンの水溶液です。うるおいを保つ効果があるとされています。
異性化糖／ペンタバイテン (いせいかとう)	主にブドウ糖および果糖からなる液体でわずかに特異臭があります。通常の保湿剤に比べて低濃度でも保湿効果があり持続性があります。
アミノ酸 (あみのさん)	200～300℃で分解する無色の結晶で、たんぱく質の構成成分です。天然では20数種類が発見されています。食物中のたんぱく質が消化されてアミノ酸に分解され、吸収された後再びたんぱく質に合成されて皮膚や毛髪に等になります。またアミノ酸は汗の中にも含まれ、皮膚のphの調整(アルカリ中和)や水分量の調整をする役目を果たしています。
アスパラギン酸／L-アスパラギン酸 (あすばらぎんさん)	植物界に広く存在し、発芽した豆類に多く含まれています。白色の結晶性の粉末で臭いはほとんどありません。生体の新陳代謝に有効で、医薬品や化粧品に使用されています。
アラニン／DL-アラニン (あらにん)	中性アミノ酸で、NMFの組成に遊離の形で含まれています。キレート剤として、ファンデーションやクリームや乳液や化粧水や洗顔料などに使用されています。
アルギニン／L-アルギニン (あるぎにん)	アミノ酸の一つです。アルカリ性なので、化粧品ではトリエタノールアミンに代わる中和剤として使用されています。
リジンHCl／塩酸リジン (りしん)	皮膚から分泌されるNMFに多量に含まれるアミノ酸の一種です。皮膚に柔軟性や弾力性を与え、肌荒れやあかぎれに有効で、保護クリームや軟膏に使用されています。

グリシン／アミノ酢酸（ぐりしん／あみのさくさん）	アミノ酸の一種です。制菌作用、キレート作用、酸化防止作用があり、石鹸やクリームや洗顔料などに使用されています。
ベタイン／トリメチルグリシン（べたいん／とりめちるぐりしん）	サトウ大根や綿実などの植物中に存在する天然のアミノ酸系保湿剤です。髪に吸着しやすいため、帯電防止剤としてヘアコンディショナーやシャンプーに使用されています。
グルタミン酸／L-グルタミン酸（ぐるたみんさん）	天然たんぱく質中の主要構成成分で、生体組織や食品中に広く存在しています。石鹸、シャンプー、リンス、頭髮化粧品、メイクアップ化粧品、基礎化粧品などに使用されています。
グルタミン酸Na／L-グルタミン酸ナトリウム（ぐるたみんさんなとりうむ）	昆布のだし汁のうま味成分を究明して発見された化合物です。人工調味料（味の素）として使用されていますが、化粧品としては、石鹸、シャンプー、リンス、基礎化粧品などに使用されています。
トレオニン／L-スレオニン（とれおにん）	たんぱく質構成アミノ酸として、動物性たんぱく質に多く含まれ、植物性たんぱく質にはあまり含まれていません。皮膚保湿剤として各化粧品に使用されています。
トリプトファン／L-トリプトファン（とりぷとふぁん）	各種たんぱく質に少量存在するアミノ酸の一種で、体内では合成されません。油脂の酸化防止作用があり、各種化粧品に使用されています。
バリン／L-バリン（ばりん）	アミノ酸の一種で白色の結晶性の粉末です。わずかに甘く後味が苦いことから、ウニ味の調味料に使用されています。化粧品では、石鹸、シャンプー、リンス、ファンデーション、クリーム、乳液、化粧水、パック、洗顔料などに使用されています。
ヒドロキシプロリン／L-オキシプロリン（ひどろぎしぷろりん／おきしぷろりん）	コラーゲンの中だけに含まれているアミノ酸です。プロリンがコラーゲンに合成された後、酸化されたものと考えられています。クリーム、乳液、化粧水、パック、洗顔料などに使用されています。
プロリン／L-プロリン（ぷろりん）	多くのたんぱく質に含まれていますが、特にゼラチンには、約15%と最も多く含まれています。コンディショニング作用があり、基礎化粧品や頭髮化粧品に使用されています。
ロイシン／L-ロイシン（ろいしん）	ほとんどのたんぱく質の構成アミノ酸として存在しています。生体内で合成されることはありません。スキンコンディショニング作用、ヘアコンディショニング作用があり、クリーム、乳液、パック、洗顔料、シャンプー、リンス、などに使用されています。
DL-ピロリドンカルボン酸／PCA（びろりどんかるぼんさん）	グルタミン酸を150℃以上に加熱して生じる物質です。皮膚中にも天然の保湿成分として存在し、醤油などの発酵製品や大豆や糖蜜などにも存在しています。皮膚に対して潤湿性や柔軟性を与えることから、クリーム、乳液、化粧水、洗顔料、シャンプー、リンスなどに使用されています。
乳酸（にゆうさん）	腐敗乳に存在する有機酸として知られていますが、動植物界に広く存在しています。角質溶解作用があり、また希釈液は殺菌作用もめることから、アストリンゼント化粧水、乳液、美白クリームなどに使用されています。
乳酸ナトリウム液／乳酸Na（にゆうさんなとりうむ）	NMF中に存在している保湿成分で、乳酸と水酸化ナトリウムを反応させて得られます。グリセロールと良く似た性質の保湿剤として各種化粧品に使用されています。
尿素（にようそ）	尿から濃縮分離して得るか、工業的に得る事も出来ます。殺菌作用があり、毒性は低いと言われています。石鹸、アイライナー、ファンデーション、などに使用されています。また毛髪の膨潤剤として、コールドウェーブ液などにも使用されています。
酸性ムコ多糖類（さんせいむこたとうるい）	ムコ多糖類とは、皮膚の真皮の主要成分です。化粧品に使用されている酸性ムコ多糖類には、ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸があり、これらは牛のへその緒やニワトリのトサカから抽出したものです。保湿剤として、使用感の改善のために配合されています。
ムコ多糖（むこたとう）	牛や豚の皮膚、軟骨、結合組織、十二指腸粘膜、眼球ガラス体、魚類の軟骨、などから酸素処理やアルカリ処理によって得られたムコ多糖類のことです。皮膚保護剤や保湿剤として各種化粧品に使用されています。
サイタイエキス／サイタイ抽出液（さいたいえきす）	牛のサイタイ（へその緒）を原料として抽出した酸性ムコ多糖類を含む液体です。主な成分は、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、デルマタン硫酸、ヘパラン硫酸、ヘパリン、ケラタン硫酸です。保湿剤として、クリーム、ローション、乳液などに使用されています。
トサカエキス／トサカ抽出液／フィブラ/N（とさかえきす）	ニワトリのトサカをたんぱく分解酵素で加水分解して得た、ヒアルロン酸を多く含む酸性ムコ多糖類の溶液です。湿度の影響を受け難く、皮膚に潤いをあたえる目的で、各種化粧品に使用されています。
ヒアルロン酸Na／ヒアルロン酸ナトリウム（ひあるろんさんなとりうむ）	牛の眼球のガラス体から得られるこの物質は、1934年メイヤーによって命名されました。生体中に微量しか存在しないため、ヒアルロン酸は非常に高価な原料でしたが、微生物による発酵方法によって安価なバイオヒアルロン酸の生産が可能になり、化粧品の原料として普及しました。保湿剤として、クリーム、乳液、美容液、口紅、リップクリーム、アイシャドー、アイライナー、マスカラ、頬紅、ファンデーション、おしろい、頭髮化粧品、シャンプー、リンスなどに使用されています。
コンドロイチン硫酸ナトリウム／コンドロイチン硫酸Na（こんどろいちんりゆうさんなとりうむ）	魚類や哺乳類の軟骨から抽出される、酸性ムコ多糖類の一種です。水に良く溶け高粘度の粘液質を作ることから、保湿剤として或いは感触改良剤として、クリーム、ファンデーション、口紅、歯磨きなどに使用されています。

コラーゲン (こらーげん)	哺乳類の皮膚、腱、骨、血管などの結合組織を構成している線維状たんぱく質です。コラーゲンには、可溶性(ソルブル)コラーゲンと不溶性(インソルブル)コラーゲンがあります。素肌を若々しく保つ働きをしているのは可溶性コラーゲンの方です。紫外線に当たったりするとコラーゲンの交差結合が増加し不溶性(インソルブル)コラーゲンが増え、皮膚の弾力性と水分保持能力が低下し、結果的にシワが増えてしまいます。コラーゲンの分子は比較的大きいため、コラーゲンを皮膚外部から補給しても肌細胞を通過(浸透)することはないと言われています。
可溶性コラーゲン/水溶性コラーゲン (かようせいこらーげん/すいようせいこらーげん)	仔牛の皮膚などの若い組織を希釈水溶液で抽出することによって得られる、交差結合のないコラーゲンです。抽出によって得られる可溶性コラーゲンの量は非常に少なく、大量に得る事は不可能だと言われています。コラーゲンの分子は3本の鎖がらせん状の編み目になっていますが、40℃以上に加熱すると、らせんが解けてゼラチンになってしまいます。分子の両末端はらせんを巻いていないテロペプチドと呼ばれる抗菌性の物質で、アレルギー反応の原因になりやすいと言われています。化粧品に配合すると皮膚の保護効果が期待できます。分子量が大きいと肌細胞を通過(浸透)することは出来ないとされています。
水溶性コラーゲン液 (すいようせいこらーげんえき)	ニワトリの脚部から抽出したものや、牛や豚の皮膚や骨髄組織から、水やエタノールで抽出したものや、牛の胎盤を凍結、融解後に塩化ナトリウム溶液により抽出したものや、魚の皮から酢酸溶液で抽出したものなどがあります。いずれも、感触改良や皮膚保護剤として各種化粧品に使用されています。
アシルコラーゲン (あしるこらーげん)	動物の真皮に存在するコラーゲンをアシル化処理して得られる水溶性コラーゲンの一種です。皮膚との相溶性が良いと言われています。
加水分解コラーゲン (かすいぶんかいこらーげん)	牛や豚の骨や皮を、酸やアルカリまたは酵素などにより加水分解して得られる物質です。皮膚の水分保持や肌荒れの防止に効果があるとされています。
アテロコラーゲン (あてろこらーげん)	不溶性コラーゲンをプロテアーゼ(たんぱく質分解酵素)処理して、アレルギー反応の原因になるとされている分子の両末端にあるテロペプチドを除いて精製したものです。皮膚の保湿効果があることから各種化粧品に使用されています。
ゼラチン (ぜらちん)	動物の骨や皮膚や靭帯などを酸やアルカリで処理して得られた粗コラーゲンを水で加熱抽出して得たゼリー状の物質です。水を加えると5~10倍量の水を吸収します。乳化剤、乳化安定剤、増粘剤として各種化粧品に使用されています。
植物コラーゲン (しょくぶつこらーげん)	ダウカスカロータというセリ科の植物から抽出される液体です。保湿剤として各種化粧品に使用されています。
エラスチン (えらすちん)	コラーゲンと同様の線維状たんぱく質で、真皮などの結合組織中の弾力線維の構成成分です。コラーゲンと異なり熱水処理にも変化しません。老化などによって真皮中のエラスチンが減少すると、肌の弾力性が失われ、たるみやシワの原因になるとされています。
水溶性エラスチン (すいようせいえらすちん)	エラスチンは不溶性ですが、牛などの腱より抽出したエラスチンを化学処理し水溶化したものが水溶性エラスチンです。保湿効果があるため、クリーム、乳液、化粧水、パック、洗顔料、ファンデーションなどに使用されています。
DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液/PCA-Na (びろりどんかるぼんさんなりうむえき)	ピロリドンカルボン酸は塩(えん)の形で、皮膚中に存在しているNMFの中で重要な役割を果たしています。DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液は、その50%溶液を指しています。高温や低温でも安定していて、刺激もほとんどないことから、クリーム、乳液、石鹸、シャンプーなどの保湿剤として使用されています。
アルファヒドロキシ酸/AHA (あるふあひどろきさん)	植物やフルーツなどに含まれる酸の一種です。皮膚表面の古い角質を除去し新陳代謝を促進させる効果があるとされています。
海藻エキス (かいそうえき)	コンブ、ヒバマタ、紅藻類から抽出して得られるエキスにグリセリンを加えたものです。ポリサッカライド、アミノ酸、ミネラル、アルギン酸などの成分が含まれています。優れた保湿効果があるとされています。コンブの海藻エキスは脂肪分解を促進すると言われ、ヒバマタの海藻エキスは血行を促進し水分や老廃物の代謝を促進すると言われることから、痩身用化粧品にも使用されています。
プラセンタエキス/胎盤抽出物 (ぷらせんたえきす/たいばんちゅうしゅつぶつ)	牛や豚や羊の胎盤から精製水で抽出されるエキスです。ミネラル類(カルシウム、ナトリウム、カリウム等)やビタミン類(チアミン、リボフラビン、ビロキシン、パントテン酸等)やアミノ酸類(アルギニン、システチン、グルタミン酸、セリン等)が含まれ、コレステロールや酵素やデオキシリボ核酸を含んでいます。メラニンの形成を阻止する作用や皮膚柔軟化作用や末梢血流障害の改善作用など幅広い効果が認められています。化粧品では保湿効果の他に、色素沈着防止やシワの予防や脱毛防止などの目的で使用されています。
アミノ酪酸/γ-アミノ酪酸/ピペリジン酸 (あみのらくさん)	ジャガイモの根茎やリンゴやマメ科植物や茶の葉などに広く存在しています。皮膚細胞の増殖力や修復力や水分保持力を高める働きがあるとされています。これらが低下すると皮膚弾力の衰えやシワなどの老化現象が現れます。化粧品には保湿剤として、L-グルタミン酸から合成したものが使用されています。
セリン (せりん)	多くのたんぱく質に少量含まれている非必須アミノ酸です。ブドウ糖から生合成されます。NMFに一番多く含まれている遊離アミノ酸です。保湿効果や柔軟効果があることから各種化粧品に使用されています。

キトサン、キチン (きとさん、きちん)	キトサンはカビの細胞壁に含まれており、工業的にはキチンから製造されます。キチンはカニやエビの殻を主原料として製造されます。キトサンとキチンはヒアルロン酸によく似た保湿性を持っています。化粧品に配合することで、保湿効果や皮膜形成効果があります。
カルボキシメチルキチン (かるぼきしめちるきちん)	カニの甲羅を形成している多糖体キチンをカルボキシメチル化した誘導体です。わずかに特異臭があり粘り気のある液体です。化粧水や洗顔料に保湿剤として使用されています。
加水分解コムギ (かすいぶんかいこむぎ)	かすかな臭いのする白色の粉末で、酵素分解によって得られる小麦たんぱく由来の物質です。保湿剤や気泡剤として使用されています。
たんぱく質分解酵素／プロテアーゼ (たんぱくしつぶんかいこうそ／ぷろてあーぜ)	たんぱく質を加水分解する酵素の総称です。たんぱく質のペプチド結合を分解します。生体内に存在しています。消化酵素として、エレブシン・トリプシン・ペプシンなどがあります。角質化した細胞を分解してなめらかにする目的で、洗顔料などに配合されています。
脂肪分解酵素／リパーゼ (しぼうぶんかいこうそ／りぱーぜ)	皮脂などを分解する効果を持った酵素です。皮膚表面の不要になった皮脂を落とす目的で、洗顔料などに使用されています。
アロエベラエキス／アロエエキス (あろえべらえきす／あろええきす)	ユリ科のキダチアロエやアロエベラの葉や葉汁を乾燥させたものから抽出して得られるエキスです。胃腸薬の他にやけど、すり傷など皮膚損傷の治療効果があるとされています。保湿効果や消炎効果があることから、化粧水、クリーム、乳液、ファンデーションなどに使用されています。また紫外線吸収効果を期待して、日焼け止めに使用されることもあります。
ヨモギエキス／ガイヨウエキス (よもぎえきす／がいようえきす)	キク科のヨモギ・モウコヨモギ・ヤマヨモギの葉から、水又はエチルアルコールで抽出したエキスです。防腐、殺菌、血行促進、の作用があり、各種化粧品やシャンプー、入浴剤に使用されています。
桑白皮エキス／クワエキス (そうはくひえきす／くわえきす)	桑の根の皮を乾燥させたものから抽出したエキスです。漢方では、クワ酒・クワ茶などにして高血圧予防や疲労回復などに用いられます。桑白皮エキスは白い肌を保つ働きがあるとされており、メラニン色素の活動を抑え、シミやソバカスを防ぐ効果があることから、クリームなどの基礎化粧品やファンデーションなどに使用されています。
アカブドウエキス (あかぶどうえきす)	アカブドウの皮から抽出したエキスです。ビタミンB群やアミノ酸、タンニンやアントシアニンなどを含んでおり、保湿や酸化防止の目的で、乳液やクリームに使用されています。
アザミエキス (あざみえきす)	キク科の多年草であるアザミの根や葉や実から抽出されたエキスです。抗菌作用があることから乳液やクリームに使用されています。
アシタバエキス (あしたばえきす)	セリ科の多年草アシタバの葉から抽出したエキスです。若葉を乾燥させてお茶にして飲むと、高血圧や疲労回復に効果があるとされています。ビタミンKが多く含まれていて、化粧品に配合すると皮膚の新陳代謝を促し、肌荒れに効果があるとされています。
ルイボスティーエキス／アスパラサスリネアリス (るいぼすていーえきす／あすぱらさすりねありす)	針葉樹でマメ科のアスパラサスリネアリスの全草を、精製水とブチレングリコールで抽出した水溶液です。皮膚保護作用や湿疹・アレルギー緩和作用があることから、各種化粧品に使用されています。
アセロラ (あせらら)	西インドチェリーとも呼ばれ、カリブ海諸島からブラジルにかけて生育する中南米産の果実で、レモンの28倍のビタミンCを含んでいます。ビタミンC以外にも、ビタミンA・チアミン・リボフラビン・ニコチン酸なども含んでおり、主に化粧品の美白剤として使用されています。
クロレラエキス (くろれらえきす)	緑褐色で特異臭のある粘性のある液体で、クロレラを熱水で抽出して得られます。クロレラは河川や湖沼や湿地に生息する植物でミネラル・βカロチン・ビタミンB群などが含まれています。皮膚細胞を活性化する働きがあるといわれ、基礎化粧品や石鹸、頭髪化粧品に使用されています。
カッコンエキス (かっこんえきす)	日本や韓国、中国に生息するマメ科の多年草であるクズの乾燥根から得られるエキスです。生薬では葛根と書き、発汗や解毒作用があるといわれています。化粧品では、保湿や美白効果を期待して使用されています。
バラエキス (ばらえきす)	バラの花から抽出される濃褐色の液体です。バラエキスは、タンニンや糖やペクチンを含み、抗炎症作用、収れん作用、鎮静作用があるといわれており、化粧水などに使用されています。
モモ葉エキス (ももはえきす)	モモの葉から抽出した特異臭のある黄褐色～緑褐色の透明な液体です。抗菌作用や消炎効果があるといわれており、シャンプーやリンス、石鹸或いは、頭髪用化粧品や基礎化粧品に使用されています。
ミリスチン酸亜鉛 (みりすちんさんあえん)	製品が固まってしまうのを防ぐ抗ケーキング剤として、或いは親油性の増粘剤として、滑沢剤として各種化粧品に使用されています。
シリコンオイル (しりこんおいる)	シリコンオイル類は、撥水性が高くべたつきがなく優れた使用感を持っており温度による粘度変化が少なく、無刺激で毒性がないといわれています。ヘアケア製品ではクシ通りを良くする目的や枝毛修復目的、メイクアップ製品では水をはじく目的や使用感を良くする目的、或いはスキンコンディショニングを目的として広い範囲の化粧品に使用されています。
ステアロキシメチコン／ジメチコン (すてあろきしめちこん／じめちこん)	シリコンオイルの一種です。白色の不透明な液体で特異臭があります。スキンコンディショニング剤として、クリーム・乳液・口紅などに使用されています。同カテゴリーのシリコンオイルをご参照ください。
ジメチコン／メチルポリシロキサン (じめちこん／めちるぼりしろきさん)	シリコンオイルの一種で、無色透明でほとんど臭いのない粘液です。撥水性がよく、汗や水による化粧くずれを防ぐ働きをします。油分を配合するあらゆる化粧品に使用されています。